

NY 市場レポート（前日 21 時 00 分～午前 5 時 30 分まで）

主要な米経済指標の結果

2 月中古住宅販売仮契約（前月比） 2.4%（予想 -2.0%・前回 5.2%⇒5.3%）

2 月中古住宅販売仮契約（前年比） 11.5%（予想 6.0%・前回 6.7%）

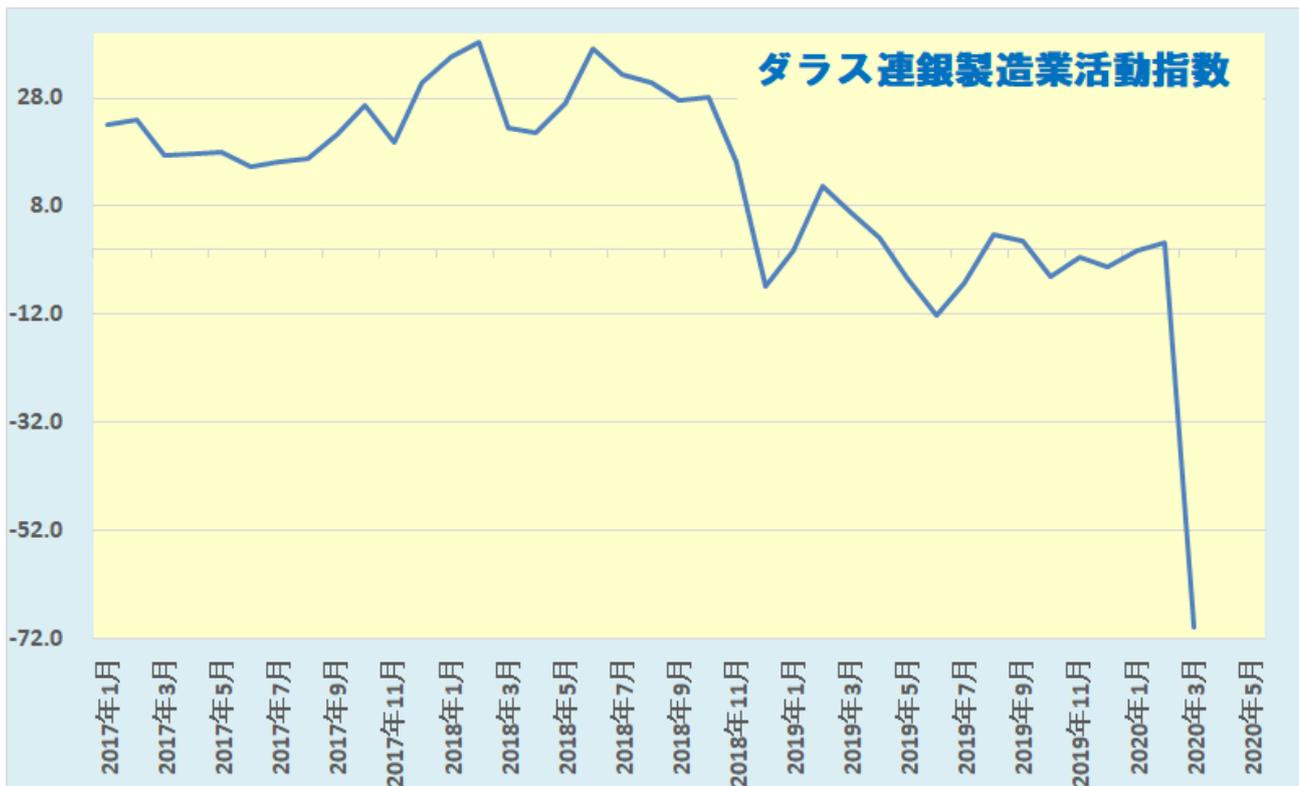
2 月の米中古住宅仮契約は、市場予想に反して上昇となったが、新型コロナウイルスの感染拡大前の統計であり、影響は反映していない。地域別では、中西部が 4.5%（7.4%）、西部が 4.6%（-0.9%）、北東部が 2.8%（前月 2.2%）、南部が 0.1%（8.5%）だった。



データを基に SBILM が作成

3 月ダラス連銀製造業活動指数 -70（予想 -10.0・前回 1.2）

3 月ダラス連銀製造業活動指数は、市場予想を大幅に下回る結果となり、過去最低となった。新型コロナウイルスの感染拡大で活動が停滞したことが影響し、新規受注が-41.3、生産が-35.3 と、ともに 2009 年以来の低水準となったことが要因となった。



データを基に SBILM が作成

米主要株価指数は大幅反発

米株式市場では、新型コロナウイルスの感染拡大が続いているものの、トランプ政権の景気刺激策への期待感を背景に、主要株価指数は序盤から堅調な動きとなり、軒並み大幅反発となった。ダウ平均株価は、上昇して始まったものの、新型コロナウイルスの感染拡大を懸念した売りが出てマイナス圏まで下落する場面もあった。その後は上げ幅を拡大し、終盤には一時前日比 741 ドル高まで上昇し、690 ドル高で終了した。一方、ハイテク株中心のナスダックは、271 ポイント高で終了した。



データを基に SBILM が作成

セクター別変動率(ダウ平均)			個別の変動率(ダウ平均銘柄)		
	セクター	変動率		銘柄	変動率
1	ヘルスケア	5.48%	1	J&J	8.00%
2	テクノロジー	4.55%	2	メルク	7.28%
3	消費財	3.88%	3	マイクロソフト	7.03%
4	通信サービス	3.79%	4	インテル	5.96%
5	石油・ガス	3.52%	5	キャタピラー	5.95%

データを基に SBILM が作成

ドル/円は 108 円台まで上昇も、その後は上値の重い動き

欧州市場の流れを引き継ぎ、序盤からドル円・クロス円は堅調な動きとなった。新型コロナウイルスの感染拡大が続いているものの、ドルは対ユーロでの上昇もあり、対円で 108.29 まで上昇する場面もあった。ただ、ドイツの政府顧問が 2009 年以来の深刻なリセッションを予測したことや、ユーロ圏の経済指標結果が市場予想ほど悪化しなかったものの、いずれも 2013 年以来の低水準になったことも影響し、ユーロは主要通貨に対して軟調な動きとなった。その後、3 月のダラス連銀製造業活動指数が過去最低となったこともあり、ドル/円は 107.66 まで下落したものの、ロンドンフィキシングでのドル買い・円売り観測から、ドル/円が再び 108 円台まで値を戻すなど、クロス円も堅調な動きとなった。ただ、終盤にかけてドル円・クロス円は上値の重い動きが続いた。



出所：総合分析チャート

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。